

会 議 名 ( 審 議 会 等 名 )		令和元年度 第 1 回相模原市スポーツ推進審議会				
事 務 局 ( 担 当 課 )		教育委員会 教育局 生涯学習部 スポーツ課				
開催日時		令和元年 7 月 2 日 ( 火 ) 午後 3 時 0 0 分 ~ 午後 5 時 0 0 分				
開催場所		市役所第 2 別館 5 階 教育委員会室				
出 席 者	委 員	1 0 人 ( 別紙のとおり )				
	その他	0 人				
	事務局	8 人 ( 生涯学習部長、スポーツ課長 他 6 名 )				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由						
会議次第		1 あいさつ 2 議 題 ( 1 ) ( 仮 ) 相模原市スポーツ振興計画における施策、事業等について 3 その他				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり（ は委員の発言、 は事務局の発言）

### 1 あいさつ

生涯学習部長及び会長があいさつを行った。

### 2 議 題

#### （ 1 ）（ 仮 ）相模原市スポーツ振興計画における施策、事業等について

事務局が参考資料1「（仮）相模原市スポーツ推進計画（骨子案）」の説明を実施した後、審議を行った。

#### 【骨子案】

- 「 5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）」の「（ 2 ）主な結果」について、小中学生の体力合計点を見ると、本市は全国平均を下回っている。都市部と地方の地域で差があるのか。また、都市部で比較しても本市は低い傾向にあるのか。

地方の地域よりも政令市など都市部の方が体力合計点は低い傾向にあり、政令市の中でも本市は低い結果となっている。

- 「 3 基本方針」の「基本方針 3 スポーツ好きな子どもの育成と体力・運動能力の向上」で「スポーツ好きな子ども」と対象を限定しているのはなぜか。概要を読むと、対象を限定した内容になっていないように思う。また、「 1 現行計画の評価・分析及び課題の整理」の数値目標値について、毎年目標値を定め、それをクリアしたかどうかで評価しているようだが、毎年数値を上げていくことを目標にするべきではないか。

ご指摘のとおり、対象をスポーツ好きな子どもに限定しているように受け取れる表記になっているので、修正を検討したい。数値目標については、本市の総合計画においても年度ごとに数値目標を定めていることから、個別計画である本計画でも年度ごとに目標値を定めることで統一することを考えている。また、本審議会では、現行計画の進行管理を行っており、次回、前年度との事業を比較しながら目標に対する評価を議論する予定である。

- 第3章「 1（ 2 ）課題と今後の方向性」の基本目標 3 に「観る」「支える」という記載があるが、資料 1 では、「観る」「支える」はそれぞれ平仮名になっている。平仮名に統一した方がいいのではないか。

ご指摘の箇所については、現行計画の内容を掲載しており、当時、文部科学省が使用していた表記に倣っている。現在の国の第2期スポーツ基本計画では平仮名に統一されているので、計画体系図ではそれに合わせて平仮名表記にしている。

- 「7 スポーツに関する本市の特徴」の「弱み」で「設置後30年を迎えるスポーツ施設が増えている」と記載があるが、何を意味しているのか分かりづらい。老朽化などの文言を入れた方がいいのではないかと。

検討して適宜、修正したい。

事務局が資料2「(仮)相模原市スポーツ推進計画における施策等について(案)」の説明を実施した後、審議を行った。

#### 【基本方針1】

- 「施策の方向2 誰もが参加できるスポーツイベントや大会、教室の充実」の主な対象にある「スポーツに消極的な市民」という表現は、マイナスイメージで捉えられてしまうので、「スポーツに触れる機会の少ない市民」という表現に修正した方がいい。

ご指摘のとおり、消極的なイメージで受け取られることもあると思うので、文言の修正を検討したい。

#### 【基本方針2】

- 「施策6-1 共同利用など既存施設の活用の推進」とあるが、共同利用の具体的な内容を教えてほしい。

公民館など身近にある施設の有効活用や、近隣市町村との公共スポーツ施設の相互利用などを主な事業として参考資料2に掲載している。

- 主な事業では民間事業者との連携についても触れられているが、民間のスポーツ施設を利用する場合は、利用しやすくする環境づくりが必要だと思う。利用にあたって補助などは考えているのか。

新規事業であるので、これから内容を詰めていく。現時点では、民間スポーツクラブを借りることができるのか、または、民間事業者と連携した取組ができないかと考えているところがある。

- 現行計画では1、2行程度でしか取り上げられていなかった障害者スポーツが、施策3-3や施策17-2など、幅広く取り上げられていることを高く評価したい。

この間の議論で様々なご意見をいただいたことや、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も契機となり、小中学校でも、車いすバスケットなどすでに取り組んでいることは表現していこうという話がでた。障害者スポーツについては、これからも積極的に記載していくことを検討したい。

- 学校開放事業については、それぞれの学校長の判断に実施が委ねられているところだが、計画の中に学校開放事業という文言を明記してほしい。余裕教室の活用についても、スペースを取らないスポーツであれば利用することができるので、検討してほしい。

学校開放事業については、「施策6-2 学校と地域との連携による学校体育施設開放事業の充実」として取り上げている。余裕教室については、文言として入れられるかはわからない。学校側に協力をいただきながら進めていくものなので、学校教育課と連携し、検討していきたい。

- 「施策の方向8 スポーツに関わる人材の発掘と養成」について、人材の確保が課題となっているが、どのような取組を考えているのか。
- 体育協会で行っているが、各加盟団体に協力してもらって進めている。
- 資格を持ったベテランの方だけでなく、一般市民にいかに参加してもらうかが重要だと思う。

町田市では国体を開催した際にボランティア登録制度をつくり、大会後もその登録制度に登録したボランティアに協力してもらっていると聞く。本市についても、今月、自転車競技のテストイベントがあるが、コースサポーターとして700人程度のボランティアの方々に応募してもらったところである。こうした方々に、継続的なボランティアとしての協力について、何らかのかたちでアプローチしていきたいと考えている。

- 公民館でも様々なスポーツ活動が行われおり、そこで、自治会などで活動している地域のスポーツ経験者を巻き込んでボランティアを増やしていくという考え方もあると思うので、具体的な取組をどんどん進めてほしいと思う。また、本市にはホームタウンチームが4つもあるため、ホームタウンチームの運営上の補助など、いろんなボランティア活動があるので、うまくPRすればやってみてほしいと思っている人は多いのではないかと思う。

#### 【基本方針3】

- 先日、子どもが学校で車いすバスケットの体験をして楽しかったと言っていたことを聞いて、うれしく思った。こうした取組は続けてほしい。

子どものスポーツについては、本計画では基本方針3に特出しして扱っている。さらに、施策13-2で障害者スポーツのことを取り上げ、「障害者スポーツ体験事業の実施」という事業を実施している。着手し始めた事業であり、今後も所管課である学校教育課と連携して取組を進めていきたい。

- 障害者スポーツが施策レベルで取り上げられているが、学校体育において、今回の施策の中には健常者向けの施策しかない。障害のある児童・生徒のための施策を入れてほしい。

ご指摘のとおり、障害のある児童・生徒向けの施策が入っていない。大事なことなので、入れられるように検討したい。

- ある学校では月曜日と木曜日は部活動がなくなったと聞いた。そういう状況と「施策10-4 スポーツに親しむ基盤となる学校体育及び運動部活動の充実」の方向に矛盾があるのではないか。

「充実」という文言はひたすらにスポーツをするというニュアンスではなく、「施策10-2 楽しみながら学ぶ学校体育の充実」にあるように、中身の充実を考えている。部活動も「施策10-4 多様なニーズに応じた運動部活動の充実」とあるように、スポーツを楽しむことを目的としたゆる部活を検討するなど中身の充実を考えている。

- 部活動が制限されるようになったのは、一部で勝利至上主義が横行した活動が見受けられたことから、学業が疎かにならないようにするための措置であり、過度な活動を抑制することが目的であることを理解してほしい。普通に活動している子どもを押さえつけてるための考え方ではない。

- 部活動に求められる形が変わってきているということだと思うが、部活動は大勢の子どもが近所の幼馴染と続けられる活動なので大事にした方がよい。ただ、指導者の人材育成は考えるべきだと思う。

- 指導者の話について、指導者は必ずしも専門家やプロがよいということではない。部活動以外でスポーツができる場所があったとしても、子どもたちを見てくれる大人が必要。そのような大人をどのように確保していくのか、この点を検討しないといつまでたっても話は進まない。

- 指導者、プロとなると、費用はいくらかかるのかという話しになる。最近は、ワークショップなどもあり、近所の保護者などが学べるようになっている。

- 部活動について、自分が所属していない部活動で活動することができるような、学校の中で  
のスポーツの交流ができるといい。子どもがやってみたいと思うスポーツを、体験させてあげ  
ることが、子どものスポーツへの関心を高めることにつながるのではないかと。

青山学院大学に協力してもらい、部活動に所属する大学生が、中学校の部活動でコーチをす  
る機会を設けたが、中学生は楽しんでいて、とても良い取組だと感じた。小学校でも同じよう  
な取組ができればいい。学校教育課などと意見交換していきたい。

- 「施策の方向10 スポーツに親しむ基盤となる学校体育及び運動部活動の充実」で取り上  
げられている部活動指導員の派遣について、中学校からするとありがたい話だが、小学校の教  
員などもっと身近な人を活用できないか。中学校区という枠があるのだから、小中学校が連携  
することも考えていい。

学校教育部と連携しながら検討していきたい。

- 「施策11-2 親子で楽しむスポーツ機会の充実」について、子どもと楽しむのは親だけ  
ではなく、祖父や兄弟姉妹で楽しむこともある。「家族」という文言を追記したらどうか。

追記するかどうかについては検討する。

#### 【基本方針4】

- 相模原駅周辺にスポーツで市民が盛り上げられる場所が整備されるとよい。それを踏まえて、  
「施策15-2 まちづくりの核となるスタジアム・アリーナの整備検討」を盛り込んだのか。  
相模原駅周辺の整備については、今後検討していく。

- 本計画の計画期間は8年間だと思うが、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技  
大会後のスポーツの推進に関する内容も検討しているのか。

施策の方向17で主に検討している。大会期間までの取組も重要であるが、大会後のスポー  
ツ活動へつなげていくことも同じく重要だと考えている。主な事業として、「自転車ロードレー  
ス大会の開催」とあるが、大会後も継続できる取組として検討しているところである。

- 施策の方向16では、ホームタウンチームについて取り上げているが、本市には全国規模の  
フットボールチームが4つあり、そうした都市は神戸市と本市だけであるので、この優位性も  
生かしたい。みなさんの理解を得て、駅前にスタジアム・アリーナが建設されれば、本市のス

スポーツは盛り上がる。良いスタジアムが整備され、そこに一流の選手が訪れて、子どもがスポーツに興味を持ってもらえれば、スポーツは盛んになる。

- 本日、委員から出された意見を踏まえた資料修正は、事務局へ一任する。

### 3 その他

事務局より、ホームタウンチームのダイナボアーズの活動案内、自転車ロードレースのテストイベントの周知をした。

以 上

## 相模原市スポーツ推進審議会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備考	出欠席
1	井上 直子	学識経験者（青山学院大学教授）	会長	出席
2	阿久根 英昭	学識経験者（桜美林大学教授）		欠席
3	井出 樹里	学識経験者（トップアスリート）		欠席
4	志村 信一	公募市民		欠席
5	安田 ひろみ	公募市民		出席
6	西岡 直子	（一社）相模原市医師会		欠席
7	三塚 康雄	（公財）相模原市体育協会		出席
8	上西 雅己	相模原市立中学校長会		出席
9	岡崎 広志	相模原市立小中学校長会		欠席
10	八木 英樹	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
11	大山 孝	相模原市スポーツ推進委員連絡協議会	副会長	出席
12	大谷 政道	相模原市公民館連絡協議会		出席
13	小出 庄作	（特非）相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		出席
14	平栗 文夫	総合型地域スポーツクラブ（（特非）城山スポーツ &カルチャークラブめいぷる）		出席
15	山内 渉	ホームタウンチーム（ノジマステラ神奈川相模原）		出席